

2023 年 3 月 23 日

株式会社 Finatext ホールディングス

Finatext ホールディングス、ツクルバ社・note 社らと共に合計 31 社で 「IR マガジン」創刊

～企業の枠を超えた共創 IR で投資家に IR 記事を届ける新しい試み～

次世代金融インフラの提供を通して組込型金融を実現する株式会社 Finatext ホールディングス(本社:東京都千代田区、代表取締役社長 CEO:林良太、以下「Finatext ホールディングス」)は、2023 年 3 月 23 日、株式会社ツクルバ・note 株式会社が中心となって立ち上げた下記「IR マガジン」企画に参画し、合計 31 社の上場企業と共に IR マガジンを創刊しましたのでお知らせいたします。

投資家のみなさまは、ぜひこちら(<https://note.com/notemagazine/m/m530d4bde968b>)から IR マガジンをフォローいただけますと幸いです。



■ IR マガジンの背景

日本政府は「資産所得倍増プラン※」を掲げ、将来的に個人の金融資産を増やすために、国民の資産を「貯蓄から投資へ」という方向にシフトする金融政策を進めています。たとえば NISA 制度の拡充など、個人が投資に参加しやすくなるように取り組まれています。

2022 年 4 月には、日本の株式市場の魅力を高めて海外からの投資を呼び込むために、東京証券取引所の市場再編が行われました。これに伴い、企業には、国内外の機関投資家や個人投資家との相互理解を深めて建設的な対話を促進するために、情報開示の充実や積極的な IR 活動の推進が求められています。

これまでの IR 活動では決算情報等の適時開示や説明会の開催といった活動が中心でしたが、このような流れを受け、より幅広い情報をわかりやすく届けるため、note を活用した IR 情報発信を行う企業が増えてきています。

今回、投資家のみなさまとの IR コミュニケーションの向上を図る上場企業 31 社が、共同でメディアプラットフォーム note 上に「IR マガジン」を創刊しました。投資家のみなさまに、参加企業の IR 情報をよりスピーディーにお届けし、投資判断に役立てていただくことを目的としています。

※資本所得倍増プラン：内閣に設置された「資本主義実現会議」にて 2022 年 11 月 28 日に決定したプラン。

(https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/atarashii_sihonsyugi/pdf/dabiplan2022.pdf)

■ IR マガジンのねらい

IR マガジンは、企業の枠を超えた共創により投資家のみなさまに IR 記事を届ける新しい試みです。投資家の方は、IR マガジンをフォローすることで IR マガジン参加企業の IR 記事の掲載通知を受け取ることができ、いち早く IR 記事を読むことができるようになります。これにより、IR マガジン参加企業は、他の企業に関心を持つ投資家を含めて、より多くの投資家に IR 記事を届けることが可能になります。

■ IR マガジンの閲覧を希望される投資家のみなさまへ

IR マガジンの閲覧を希望される投資家のみなさまは、ぜひ下記 URL から IR マガジンをフォローください。

<https://note.com/notemagazine/m/m530d4bde968b>

■ IR マガジンの参加企業(合計 31 社)

IR マガジンの参加企業は以下のとおりです(順不同。各参加企業の「株式会社」省略)。

ツクルバ(東証:2978)

note(東証:5243)

アズ企画設計(東証:3490)

アディッシュ(東証:7093)

アピリッツ(東証:4174)

エアークローゼット(東証:9557)

グッドスピード(東証:7676)

グラッドキューブ(東証:9561)

スパイダープラス(東証:4192)

スマレジ(東証:4431)

セレンディップ・ホールディングス(東証:7318)

ツナググループ・ホールディングス(東証:6551)

トビラシステムズ(東証:4441)

日本情報クリエイト(東証:4054)

プレイド(東証:4165)

ブロードエンタープライズ(東証:4415)

メンバーズ(東証:2130)

ランサーズ(東証:4484)

ランディックス(東証:2981)

ロードスターキャピタル(東証:3482)

CINC(東証:4378)

Enjin(東証:7370)

Finatext ホールディングス(東証:4419)

GameWith(東証:6552)

GA technologies(東証:3491)

HENNGE(東証:4475)
HYUGA PRIMARY CARE(東証:7133)
JDSC(東証:4418)
Recovery International(東証:9214)
ROBOT PAYMENT(東証:4374)
THECOO(東証:4255)

■ IR マガジンの企画・運営

「IR マガジン」は、株式会社ツクルバが発案し、note 株式会社と共に中心となって立ち上げた新しい企画です。今後は、メディアプラットフォームを提供する note 社が中心となり、IR マガジンの運営を行ってまいります。

■ IR マガジンへの参加を希望される企業の方へ

IR マガジンでは、参加企業を募集しています。参加をご希望の企業様は下記にお問い合わせください。

<https://note-ir.zendesk.com/hc/ja/requests/new> (note 株式会社 IR お問い合わせ窓口)

Finatext ホールディングスは、今後も、IR マガジンを含めた“note で IR”の活用等の積極的な IR 活動により、投資家のみなさまとの IR コミュニケーションの向上を行ってまいります。

●株式会社 Finatext ホールディングスの IR note

<https://note.com/finatexthd4419>

<note について>

note はクリエイターが文章や画像、音声、動画を投稿して、ユーザーがそのコンテンツを楽しんで応援できるメディアプラットフォームです。だれもが創作を楽しんで続けられるよう、安心できる雰囲気や、多様性を大切にしています。個人も法人も混ざり合って、好きなものを見つけたり、おもしろい人に出会えたりするチャンスが広がっています。2014 年 4 月にサービス開始し、約 3,000 万件の作品が誕生。会員数は 585 万人(2022 年 11 月時点)に達しています。

●URL: <https://note.com/>

●iOS アプリ: <https://itunes.apple.com/jp/app/note-noto/id906581110>

●Android アプリ: <https://play.google.com/store/apps/details?id=mu.note>

以 上

【Finatext グループと株式会社 Finatext ホールディングスについて】

Finatext グループは、「金融を“サービス”として再発明する」をミッションに掲げ、次世代金融インフラの提供を通して組込型金融を実現するフィンテック企業グループです。金融サービスのあるべき姿をユーザー視点から見直し、パートナー事業者と共に新しい金融サービスを開発する「株式会社 Finatext」、オルタナティブデータ解析サービスの「株式会社ナウキャスト」、証券ビジネスプラットフォームを提供する「株式会社スマートプラス」、次世代型デジタル保険の「スマートプラス少額短期保険株式会社」といった事業会社を擁し、「金融がもっと暮らしに寄り添う世の中」の実現を目指しています。

会社名 : 株式会社 Finatext ホールディングス
代表者 : 代表取締役社長 CEO 林 良太
証券コード : 東証グロース市場 4419
設立 : 2013 年 12 月
所在地 : 東京都千代田区九段北一丁目 8 番 10 号
住友不動産九段ビル 9 階
公式サイト : <https://hd.finatext.com/>

